

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記4

国立市立国立第七小学校

平成28年9月13日 NO.42 (342)

花ちゃん 「モンタ博士！この前は、クズの葉と虫のお話でしたね。」

オー君 「クズの葉といろいろな虫の関係がとてもよくわかりました。」

花ちゃん 「クズのお話は、もう終わりですか。」

モンタ博士 「クズの花、クズの葉、と書いたので、今日は、クズの茎と根についてお話ししよう。まず、クズの茎(つる)というのは、それはそれはよく伸びるんだ。」

花ちゃん 「どのくらい伸びるのですか。」

モンタ博士 「モンタ博士がおうちの近くで、一日にどのくらい伸びるかを観察したことがあったけど、その時は、一日に50センチも茎(つる)が伸びたんだ。」

オー君 「へえー。すごく伸びるんですね。」

モンタ博士 「たくさん伸びすぎて、困ってしまうこともあるけど、昔はこの茎から繊維をとり、『葛布』という布を作っていたんだよ。」

花ちゃん 「へえー。クズって役にたっていたんですね。」

モンタ博士 「クズは、根もとても大切なんだ。」

オー君 「根っこをどうするのですか。」

モンタ博士 「でんぷんを取るためさ。モンタ博士はね、今から20年くらい前に自分でクズの根を掘ったことがあるんだ。」

花ちゃん 「どこで掘ったのですか。」

モンタ博士 「モンタ博士のおうちの近くの川で、一人で掘ったのさ。直径2m、深さ1mくらい掘ったね。そして、上の写真くらいの根っこを掘り出したんだ。」

花ちゃん 「クズの根っこから、でんぷんが取れるんですね。」



クズの根っこ

(もっと太いものもある)

モンタ博士「そのとおり。クズの根っこから取ったでんぷんを『くず粉』といわれるもので、いろいろなでんぷんの中でも特に質のいいものといわれているのさ。」

オー君 「『くず湯』というのは、この『くず粉』をお湯にとかしたものでですか。」

モンタ博士「そのとおり。『くず粉』から作った『くず湯』を『葛根湯』といい、冬のかぜ薬としても用いられてきたんだよ。発汗や解熱の作用があるんだよ。」

オー君 「へえー。クズってすごい植物なんですね。」

モンタ博士「それだけじゃないよ。クズはお菓子にもなるんだよ。」

花ちゃん 「え！お菓子？どんなお菓子があるのですか。」

モンタ博士「そうだね。モンタ博士が好きなクズを使ったお菓子といえば・・・いろいろあって困ってしまうけど・・・まず、くずきり。それからくずまんじゅう。さらに、くずようかんなんていうのもおいしいね。それから、くずもちなんかも好きだね。」

オー君 「くずきり、くずまんじゅう、くずようかん、くずもち・・・食べたいな！」

花ちゃん 「クズって、きれいなお花を咲かせ虫たちにミツを与え、葉はいろいろな虫の食べ物になったり、茎で布を作ったり、根っこはかぜ薬になったり、お菓子になったり、すごいんですね。クズを見直しました。」

モンタ博士「そうだね。日本人は、昔から植物と仲良くくらしてきたというわけだね。」

おまけのクズのお話

秋の七草の1つにも数えられるクズは、野山に自生するつる性の多年草です。古くから薬用や飢饉の時の救荒食とし、茎の繊維で布を織るなど、生活に密着した身近な植物でした。ところが最近では全く顧みられず放棄され、害草として嫌われています。

かつてアメリカの大統領が土壌緑化保全や水源確保のための植物として、日本のクズに目をつけました。生長が早くやせ地でもよく育ち、堤防の崩壊などを防ぐ等、当初はその威力を発揮しましたが、あまりの猛烈な繁殖力で森林に大被害を与え、今では世界中に緑の恐怖を与えています。ところが、近年また、中国奥地やアフリカの砂漠の緑化に用いられ、植物の全く生えない裸地では大いに認められています。また、クズは、栄養価に富み、アメリカでは家畜の肥料として高く評価されてきています。日本でも昔は家畜の飼料としていましたが、まったく利用されていません。

